

カヌー競技の見方

カヌー競技の現況

昭和39年、(1964年)東京オリンピックのカヌー競技に日本が初めて参加して以来、カヌースポーツに対する国民の関心が高まってきました。

もともとカヌーは、私たちの祖先が海・湖沼などで物資輸送や交通手段、そして狩猟に使用する等生活にかかせない道具として、大切にされて来ました。そのようなことから歴史は古く色々なスポーツよりも人々に親しまれています。特に、欧州各国での普及はめざましく、1924年パリオリンピックで公開競技、1936年ベルリンオリンピックから正式競技に採用され、世界でも最も普及したスポーツとなっています。

近年は、自然と親しむアウトドアスポーツとしても注目を集め愛好家も増えて、生涯スポーツとして盛んに行われています。我が国においては、日本カヌー連盟を中心として全国各都道府県にカヌー協会が設置されております。国民体育大会には、昭和57年第37回国民体育大会(島根県)より正式競技として採用され全国に充実発展しています。

カヌーの概要

カヌーには、カヤック(K)とカナディアン(C)の2種類があります。カヤックは、艇の中央部に座り、パドル(櫂・かい)の両端にあるブレード(水かき)で、左右交互に水をかきながら艇を進めます。また、カナディアンは、立てひざもしくは片ひざの姿勢を保ち、片側にブレードの付いたパドルを操作し進みます。スプリント艇(カヤックのみ)のみ、足で舵(かじ)を操作しながら方向を整えますが、それ以外は全てパドルを操作し、方向を整えながら進みます。

ボートとカヌーの違いは、ボートはリガー(オールを固定する場所)が取り付けられているのに対し、カヌーはどのタイプもパドルが固定されていません。また、ボートは後ろ向きに漕ぎ推進させますが、カヌーはすべて前向きに漕ぎ推進させます。

カヌー競技の種目と種別

国民体育大会の競技には、河川の急流で行う「カヌースラローム競技」、「カヌーワイルドウォーター競技」と静水面で行う「カヌースプリント競技」の3種目があります。

各種目とも、選手は次の(A)・(B)に参加できることになっています。

- カヌースラローム (A) 25ゲート (B) 15ゲート
- カヌーワイルドウォーター (A) 1, 500m (B) スプリント
- カヌースプリント (A) 500m (B) 200m

カヌースラローム

カヌーを使った回転競技で、変化に富んだ流れのある河川で行う競技です。

ICF（国際カヌー連盟）の競技規則の改定に伴い、種目名称及び略称の変更が行われ、平成21年4月1日から「スラロームレーシング（SLR）」から「カヌースラローム（SL）」となりました。

ダウンストリームゲート（こぎ下り：緑と白のポール）とアップストリームゲート（こぎ上がり：赤と白のポール）を、パドルを使ってポールに触れないよう通過し、その速さを競います。国体では、25ゲート（ポール）と15ゲート（ポール）で競技が行われ、コースの距離は250～400m内でゲートが設定されます。順位は、スタートからゴールまでの所要タイムに、各ゲート通過時のペナルティ（罰点）を加えて決定します。したがって、点数の少ない方が上位となります。各選手は2回漕航し、そのうち良いほうの成績で順位付けがされます。

これまではK（カヤック）種目だけが実施されていましたが、平成29年愛媛国体からC（カナディアン）種目が追加されました。

◎ ゲート通過時のペナルティ

正しく通過	0点
1本又は2本のポールに触れる（何回触れても）	2点
不通過	50点

◎ 成績の計算例

スタートからゴールまでのタイム（3分30秒として）

3分30秒＝210点（1秒を1点）

ペナルティ（罰点）・・・ポールに接触1カ所、不通過1カ所として

2点+50点＝52点

成績（タイムとペナルティの合計）

210+52＝262点

カヌーワイルドウォーター

岩などの障害をかわしながら、流れの激しい河川を一気に漕ぎ下る競技で、順位は所要タイムで決定されます。

ICF（国際カヌー連盟）の競技規則の改定に伴い、種目名称及び略称の変更が行われ、平成21年4月1日から「ワイルドウォーターレーシング（WWR）」から「カヌーワイルドウォーター（WW）」となりました。

競技は、1,500mとスプリント（スラロームのコースを使用。コース長は300m～600m）の2つの距離で行われ、デモンストレーション、ノンストップトレーニング（練習、1,500mのみ）に続いて、1,500mでは1回、スプリントでは2回（成績は2回のうち良い方で順位付がされる）の試技が行われます。

※カヌースプリントについては、後日追加予定。